

重点目標、重点的取組

| 学校教育目標 実現のための 重点目標 | 目指すべき子どもの姿となる 達成指標 | 達成指標を達成するための 重点的取組 | 重点的取組に係る具体的な 取組指標 |
|--|---|--|---|
| 小学 学校力の 時代に習 得すべき 活用力 （基礎の 軸向上） B | ■学力に関する達成指標 1「中津市学力状況調査 （国語・算数）」結果 [基礎] ・個人目標値を上回る学級： 【国語】100%、【算数】100% [活用] ・個人目標値を上回る児童： 【国語】80%、【算数】80% 2「単元テスト(国語・算数)」結果 ・平均80%以上の児童： 【国語】80%、【算数】80% | 【授業改善】 ・授業において、友だちの考えを最後まで聴き、それに対して自分の考えを持ち伝えることができるように指導する。(B1) * 新大分、城井小スタンダードは継続 | ・児童は授業を振り返り、結果をチェックカードに記入する。(毎日) ・教師は取組チェックシートに記入(毎日) ・結果集約し検証・改善検討(月1回) * 取組チェックシート等の内容については、随時見直して改善を図る。 |
| | | 【基礎力向上】 ・小単元の終了ごとにテスト等で理解できたかの振り返りをし、定着を図る。(B2) * チャレンジタイムは継続 | ・小単元毎に振り返り問題を解かせ、理解度を把握し、学び直しや個別指導をする。(小単元毎) |
| | | 【活用力向上】 ・授業や家庭学習で、応用問題を解かせたり、条件付きの文章を書かせたりする。(B3) | ・担任がB問題等の応用問題や条件付きの文章を書かせる課題を出し、できた部分に対して自信を持たせる声かけをする。(週1回程度) |
| | | 家庭 ・家庭学習を習慣化させる。(B4) | ・宿題の出来具合の確認(毎日) ・各学年の学習時間のめやすや宿題の仕方や出来具合について、学級懇談で話したり、学級通信等で知らせたりして、協力を求める。(学期2回) |
| 地域 ・学校公開に参加する。(B5) | ・学校便りなどで、児童の様子を知らせる。(月1回) ・学校公開日(参観授業・公開授業)への参加を呼びかける。(学期3回) | | |
| 中学・将来につな がる力の育成 （成長軸） G | ■児童アンケート結果に関する達成指標 ・明るくやさしいあいさつや言葉づかいができる 80%以上 ・自他を大切にしている 70%以上 | 【あいさつ進化】 ・立ち止まってあいさつができるようにさせる。(G1) | ・自己評価でふりかえさせる。(毎日) ・自己評価の結果を集計し、翌月子どもたちに自己評価結果を知らせ、意欲づけをする。(月1回) |
| | | 【言葉遣い】 ・「です、ます」をつけたていねいな言葉づかいができるようにさせる。(G2) | ・自己評価でふりかえさせる。(毎日) ・自己評価の結果を集計し、翌月子どもたちに自己評価結果を知らせ、意欲づけをする。(月1回) |
| | | 【自己肯定感】 ・「いいところみつけ」で自分のいいところを発見できるようにする。(G3) | ・毎日帰りの会でチェックシートを用いて、自分自身の生活をふりかえさせる。(毎日) |
| | | 家庭 ・学校であったことを話す時間を増やすように促す。(G4) | ・学期ごとのアンケートの項目に入れる。(学期1回) ・学級通信で学校行事等を知らせる。(月1回以上) |
| 地域 ・地域の方にすすんであいさつができるようにさせる。(G5) | ・交通指導の折に、子どもの様子を聴かせてもらう。(月1回以上) | | |
| （マ ネジメ ント 向上 軸） M | ■総合力に関する指標 ・教職員「目標達成に向けた一体感」3/4以上 ・学校参観者拡大 前年比30%増 ・多様な人材参画による教育力向上 10回以上/年 | ・好循環サイクルを確立する。(M1) | ・好循環サイクルの実施、数値化・見える化(月2回) ・自律改善活動(事象発生時) |
| | | ・外部リソースの活用、地域連携の再構築に取り組む。(M2) * 従来の地域交流は継続 | ・「世界チャレンジ」大会の企画・運営(月1回) ・「夢志講話」の運営(月1回) ・ネットワーク交流学習(全学年/年) ・地域懇談会立ち上げ後のフォロー(全支援者/学期) |
| | | 地域 ・学校教育に参画する。(M3) | ・学校教育に対する評価(学期1回) ・地域各組織からのチャレンジ呼びかけ(2ヶ月1回) ・「夢志講話」の実施(月1回) |